

# 確信、交わり、喜び

## 1 ヨハネの手紙 5:7~13



5:7 あかしするものが三つあります。

5:8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。

5:9 もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。

5:10 神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。

5:11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

## ヨハネの福音書が書かれた目的

イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが**信じるため**、また、あなたが信じて、イエスの御名によって**いのちを得るため**である。

(ヨハネ20:31)

生涯の最大の必要は、主イエス・キリストを信じて、永遠のいのちを見出すことです。

## 1 ヨハネの手紙が書かれた目的

### ①永遠のいのちの確信

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが**永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるため**です。(1ヨハネ5:13)

また、人が信じるに至ったときには、永遠のいのちを受けていることに関する、本当の絶えることのない確信をもつことも、等しく重要でなのです。

### ②交わり ③喜び

私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの**喜びが全きものとなるため**です。

(1ヨハネ1:4)

真実な交わりの後に喜びが来ます。

## 神との交わりに確信が必要

私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、**御父および御子イエス・キリストとの交わり**です。(1ヨハネ1:3)

多くの人々は、神の御前に立つことについて、確信を持っていません。彼らは、自分が救われているとは考えますが、明確な確信を欠いています。

ある人々は、神の恵みに関してあつかましくなることを恐れ、確信を持ちすぎることを恐れています。その結果、彼らのクリスチャン生活は弁解がましくなり、イエス・キリストを通した神との真の交わりを欠いてしまいます。

神の永遠の救いのご計画の背後にある主な目的の一つは、神ご自身と人間の間にある交わりの再確立であると信じます。そして交わりの基盤は確信にあります。確信なくして神との交わりは不可能です。



# 永遠のいのちに対する 確信が欠けている理由

## ①律法や自分の善行に頼る

私たちの義はみな、不潔な着物のようです。  
(イザヤ64:6)

もしこれが、私たちの義を表しているのならば、私たちの罪について主はどう考えておられることだろう。

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、(ローマ3:23)

福音は、私たちが何をしたかではなく、キリストが何をしたかである。

## ②神のことばに対する信仰の欠如

神の約束に信頼することを恐れる人がいます。彼らは、自分の振舞いを見て、これがクリスチャン生活であると自分が考えている生活をしていると自分を納得させます。もし自分の振舞いが正しければ確信をもち、弱さや失敗を発見すれば確信がなくなります。

そうではなく、私たちは自分が受け入れられていることを信じ、神のことばに安らぐことを私たちの喜びとすべきです。

# 永遠のいのちの確信 に対する根拠

## ①御霊の証しによって

私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が私たちの霊とともに、あかししてくださいます。(ローマ8:16)

他の婦人を自分の母親であると間違えるような息子はありませぬ。彼は何百人もの人の中から、容易に母親を見つけ出す出すことができるでしょう。決して誤ることのない、血縁関係や証しがあるのでしょうか。

そのように、神との新しい関係が私たちの生活の中で実際的になるときに、聖霊が私たちの内側で証ししてくださいます。

## ②神のことばの証言によって

まことに、まことに、あなたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わせた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。(ヨハネ5:24)

「永遠のいのちを持つ」「死からいのちに移っている」という現在時制に注目してください。

今直ちに経験し確かめられる何かがあるので、将来の祝福ではなく、今の祝福なのです。

## ③神の命令に従いたいとの 願いによって

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れませぬ。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえられるものだからです。(1コリ2:14)

人は、単純に、自分自身の力で神の御旨を行なうことはできません。

## ④生活の欲求と変革によって

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、すべてが新しくなりました。(2コリント5:17)

- 1、的外れな人生から、真の目標ある人生へ
- 2、贖われたたましいに真の平安が
- 3、罪に対抗する新しい力が
- 4、死に対する恐れが取り除かれる

## 証しと影響力

人々は真実なものを探しています。彼らは、自分の必要に答えるキリスト、彼らの生活の中にご臨在を示すことのできるキリスト、救うことができ、自分が贖われたことを知らせることのできるキリストを欲しているのです。